

# ストーカーの恐怖 切実

## 刺殺の女性、カウンセラーに相談1年

# 「警察、逮捕してくれない」

神奈川県逗子市で6日、元交際相手の小堤英統(よしむね)容疑者(40)に刺殺されたフリーデザイナー三好梨絵さん(33)は、約1年にわたり、ストーカー被害者を支援するカウンセラーに相談していた。男の影におびえ、警察への不満を何度も訴えていた。

三好さんがNPO法人「ヒューマニティ」(東京都大田区)を訪ねたのは昨年6月15日のこと。小早川明子理事長と面談し、2時間、経緯を語った。小堤容疑者とは2004

年ごろ出会った。結婚の話は出たが、婚約はしていなかったという。「付き合ううちに仕事に口を挟むようになった。それが嫌だった」。06年6月に別れを切り出したが、小堤容疑者は怒って「本当に好きなんだ」と言うばかり。7月、「恋人ができた。関係が戻ることはない」と告げた。

1週間後、態度が変わり始める。

「お前だけ幸せになるのは許さない」とメールが届き、携帯電話を着信拒否にした。「睡眠薬を飲んだ」というメール、「助けてください」といった留守電……。すべて放置した。

結婚は小堤容疑者に隠していたが、ばれた。11年の春先、「刺し殺す」といったメールが届き、逗子署に相談。小堤容疑者は6月に脅迫容疑で逮捕された。三好さんが小早川さんを訪ねたのは、そのころだ。

「一人でよく頑張ったね」と声をかけると、「いろいろな人に相談し、初めて言われた。その言葉がほしかったのかも」と喜んだ。

「不起訴ならすぐに出てくる。どうしたらいいでしょうか」。不安そうに話す三好さんに、小早川さんは自分が小堤容疑者をカウンセリングすることを提案した。だが、三好さんは小堤容疑者の名前も詳しい住所も明かさなかったという。

6日後。再び会った三好さんは「起訴されましたよ。よかった」と生き生きとした笑顔を浮かべていた。

今春、小早川さんのもとに、三好さんから再び電話があった。小堤容疑者から1千通を超えるメールが届いたという。「すぐ警察に逮捕してもらいなさい」と助言しても、「ストーカーじゃないと言われました」「もう駄目なんですよ」。

それまでと違う取り乱し方だった。

8月、今度は小早川さんから電話をかけた。「何度も警察にお願ひしているのに逮捕されない」。焦ったような口ぶりだったという。「何度でもお願ひすべし」と声をかけるのが精いっぱいだった。

声を聞いたのは、それが最後になった。小早川さんは悔しそうに振り返る。「すっかりした女性だった。警察は『彼女なら身を守るだろう』と油断したのではないかと

## 嫌だと確実に伝える ■ 接触を完全に断つ

今回の事件では、連続メールを「つきまとい」として取り締まれないストーカー規制法の不備や、被害者が隠していた住所・氏名を容疑者に伝えた捜査のあり方が問われている。被害者は自らの身をもどのように守った方がいいのか。

精神科医で性犯罪者やストーカーにカウンセリングをしている

「性障害専門医療センター」の福井裕輝代表は、最も重要なのは

### 被害者に専門家助言

「ストーカーの被害者だとまず自覚すること」だという。「相手に『嫌だ』『恋愛感情はない』と確実に伝えた上で、接触を完全に断って安全を確保すべきだ」

福井さんはさらに、「相手が執着する隙をつくらない方がよい」と語る。三好さんに対する小堤容疑者のストーカー行為は、メールを通してだった。メールアドレスや住所を知られている場合には、

可能なら変更し、個人情報保護を徹底すべきだ、という。ストーカーは、自分の行動や思いを専門家に語りながら自己を見つめ直すカウンセリングのほか、

投薬、入院といった精神的ケアで治まることも多いという。「被害者は捜査機関や加害者の家族らに対し、ストーカーを精神科や支援団体に行かせるように促すことが重要だ」と提言する。

facebook

友達、スポット等を検索



三好梨絵さんは交流サイト「フェイスブック」にアカウントを開いていた